

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	4073400469		
法人名	社会福祉法人 同朋会		
事業所名	グループホーム 国分	(ユニット名	4階 )
所在地	太宰府市幸都2-8-12		
自己評価作成日	平成23年8月23日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成23年9月28日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<p>オムツや紙パンツを極力使用しないように取り組んでいる。</p> <p>天候の良い時期は、バスバイクやドライブ・散歩など外出し、外の雰囲気を感じることが出来る様に配慮している。</p> <p>当ホームでは終末期の介護は想定していないが、法人内に老健・特養があり利用者の状態に応じて施設を移動することが可能となっている。</p>
---

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>事業所は、東側に宝満山、西側には天拝山が見える閑静な新興住宅地に位置し、4階建ての建物の3階・4階がグループホームである。事業所の特徴として、入居日、当日から紙パンツ外しに取り組み、現在、昼間は全員紙パンツ外しができている。紙パンツ外しをすることで、利用者の表情や言葉数が多くなり、生きる意欲につながり、その人らしくより活き活きと生活されている。管理者と職員は常に「人を思う気持ち」を持って利用者に接している。「理念」と「共感共生」を根底に一人ひとりの人生を大切に支援している。法人内には老人保健施設、特別養護老人ホーム等を併設しており、利用者の状況に応じて施設を移動することができるので、利用者も家族も安心されている。</p>
---

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めて医ずsいることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に管理者、職員との連携のもとにフロアミーティングなどで共有し、実践し取り組んでいる。	毎日、申し送り時に理念を唱和している。その時に、理念に結びつく様な個別ケアについて話や、理念を通して心のケアについても深く話すようにしており、職員は実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアの受け入れを頻繁に受入交流を図っている。又、同敷地内ケアハウスなどの交流も図っている。	区の行事、国分地区のサロンへ体操等、月に1回、2~3人ずつ参加している。地域の方には、同一敷地内にある施設と一緒に開催する夏まつりに参加してもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通し、公民館、ふれあい館の利用を通して地域の理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の参加者、区の評議委員、市担当者包括支援センター、民生委員などの他の施設情報を頂きながら向上を図っている。	運営推進会議は、区長、民生委員、地域包括支援センター、市の職員、家族、本人が出席し、2ヶ月に1回開催している。本人が参加したことがあり「100歳まで生きます」と宣言したことが、生きがいにつながったことがある。地域の情報を得て、質の向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の中で、相談、アドバイスを頂きながら、連携し少しずつではあるが、協力関係を気づく様になっている。	市の広報を見て地域の「ふれあい」館を利用している。利用者と一緒に公園に散歩した時、日陰やトイレの数が少なかったので意見を言ったことがある。市からは、介護困難な方の相談を受けて引き受けたりしており、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関しては、事あるごとに理解はしているが建物の事情により(3、4階の為)やむ得ずロックはしているが、ご家族の了解は得ている。	事業所が建物の3階と4階にあり、エレベーターを使用するため、構造上エレベーターの鍵は開かないようにしているが、手前のとびらは開放している。以前、利用者の方が外に出て3、4日程、帰れずヘリコプターで捜索されたことがあり、やむを得ず鍵をかけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム会議、フロア会議などで、常に虐待に関する話し合いを持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域(市)などの学ぶ機会を利用し、参加している。 包括会議研修などで知識を広めている。	利用者の中には権利擁護の制度を活用している人はないが、事業所内で学習する機会を設けている。市の研修に参加した場合は後日、学習会を開いて伝達研修をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき、十分な説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・来訪の折に希望、要望など伺いその都度職員と共有し、反映している。	毎年4月に食事を兼ねて家族会を開催しており、意見等を聞く機会を設けている。入居するまで家族での対応が大変だった方が、入居後は落ち着かれていますので、家族会も和やかな雰囲気です。不満が出ず、感謝されていることが多い。要望があればすぐ対処していく様に心がけている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの提案があれば、フロア会議などで話し合い反映している。	職員からの意見や提案は、日々の会話の中やミーティングで取り上げられ、検討・反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の特技を生かし、役割を持って個別ケア、環境整備などに生かしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	現在の介護職員の減少からは、選べる事が出来ず、又、個々の職員が生き生きと働ける環境が出来ている。	職員の採用に関しては性別、年齢を問うことはしていない。現在、59歳の職員を採用している。職員の得意とする調理や縫物等の領域で能力を活かしながら、生き生きと勤務している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	申し送り(朝礼)全体会議などで、折にふれ利用者の人権尊重の話題を取り上げている。	市主催の人権、啓発活動の講演会等に参加しており、後日、申し送り等で報告を行い職員間で情報の共有をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修、また他の研修を受ける機会を持っている。新人研修は業務の中でその都度指導している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	数件の同業者の交流は図っている。法人内のGHの交流はある。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	以前の生活環境、生活歴を基に心の信頼を計り、ご本人が安心でき、生活支援に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相手側(相談者)話をよく聴き、理解し私どもの協力が届くように説明に応じている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームに繋がらなくともその方に合ったサービスの利用、導きを心がけている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活全般利用者と共に行い、今まで培って来られた事を頂きながら、共感共生に基づき生活をしている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に、来訪の折に現状報告、共有し本人の支援にあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前の居住地、友人の招き、共に、ドライブなどをの利用で支援などに努めている。	入居するまで通っていた教会の方などの訪問を受け入れたり、今まで食べに行っていた馴染みの店と一緒に行く等、馴染みの関係が途切れない様に支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中の日常生活に関わりを持ち、その環境作りに多くの参加をもち、支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族とはその後も、連絡をとり併設の施設内入所であれば、行事等に参加、声かけしている。 (ご家族とともに)		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴などを基に、心地よく興味をもたれ生き生きとした生活ができる様支援している。	入居時に本人の生活歴を聞き取ったり、家族等の訪問時や本人の会話の中から意向の把握に努めている。また本人の意思表示ができない方は、本人の表情や動作をくみ取りながらどのように暮らしたら最良なのか本人本位の検討に努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前の暮らし方、生活環境は当の本人、担当者、ケアマネから情報を得ている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を通して、日誌・ケース記録・ケアカンファレンス内で、現状把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状、生活歴などで職員間の話し合いを持ち介護計画を家族に提示し了解を得ている。	毎月、職員同士が「本人がよりよく暮らすため」と介護計画について話し合いを行い、モニタリングを行っている。また、退院や転倒等による状態変化時は早急に話し合い、見直しを行っている。本人はもちろん家族の訪問時に要望等を聞き、介護計画に反映させている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、個別の介護計画を元に、関連した記入をしている。気づきがあれば色分けして、ラインを引き他の職員が共有して活用している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時、そのニーズに対応、本人の気持ちに沿う介護に取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア、地域の小中学生・保育園との交流を計り、支援を心がけている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院・今までのかかりつけ医院と連携を図っている。月2回の心療内科の往診も頂いている。	入居時に、これまでのかかりつけ医を聞いているが、往診をしていただける協力医に変更されることもある。協力医の受診は職員同行を行っている。他科受診は基本的に家族対応であるが、家族が同行できない時は職員が受診の支援を行い、報告をしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師の配置はない。併設看護師の協力を仰ぐこともある。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカーとの連携は常に持ち、病院との関係づくりを行っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームは看取りは行っていない。医療機関、併設の特養、老健への移行の話し合いを十分に説明、施設相談委員、医療ソーシャルワーカーとの共有を図っている。	入居時に、看取りを行っていないことの説明、同意を得ている。本人が重度化した時及び終末期は、本人・家族の要望を汲み取りつつ、次の入居予定の施設相談員や医師等を交え、併設の施設や入院等の連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急搬送マニュアル作成、連絡網の準備 併設老健などで勉強会と通し、ホーム内でのその時々の中で実践力を身に付けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。数ヶ月前より数個の住宅ができ、夏祭りにお誘いし、今後協力を構築したい。	年2回、消防署の協力のもと避難訓練を行っている。また、避難場所は建物が4階建の為、消防署よりリビング側のベランダに集合を行うよう指示をもらっている。地域の協力については、数ヶ月前より事業所の周囲に数件家が建ち始めたところであるため、これから協力体制を築いていく予定である。	災害時に備えての取り組みとして、食料や水等の備蓄が望まれる。今一度、災害時の対応等について話し合いの機会を持つことも期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬い、誇りやプライバシーを損ねないように気をつけている。	日頃より接遇については話し合いを行っており、便失禁時は「部屋を片づけに行きましょう」等と、さりげない声かけをし、周囲に気づかれないようプライバシーへ配慮した対応を行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望に沿い、可能な限り寄り添うように心がけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分の見極めをし、ペースに合った対応、支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に本人の希望に合う様に支援、日常・外出時のサポートをしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聴き、職員と一緒に準備、彩り、品数に気をつけ片寄りのない内容にしている。後かたづけも職員と一緒にしている。	常に包丁を10本ぐらい準備しており、利用者と職員と一緒にサツマイモの皮をむいたり、野菜を切ったり、調理の下準備をしている。また、食後の後片付けも職員と一緒にしている。職員も同じテーブルにつき、一緒に会話をしながら食事を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の記入をし、体重の増減を考慮し、また、水分補給は時間に応じ提供。ご本人が飲用出来るよう常に準備している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケア、うがいなどの徹底 夜間の義歯預かり(ポリデント)。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は全員紙パンツ0で徹底して自立に向けた支援をしている。 (時間におけるトイレ誘導)	入居前は紙パンツであっても、入居時より即パンツに切り替えての対応をしている。紙パンツ外しをする事で、利用者の表情や言葉数が多くなり、生きる意欲につながることを利用者から教わり、職員一同、パンツで過ごすことの大切さを知り、自立に向けた支援を十分に行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入浴時の腹満などに気をつけ、その都度個別に下剤の服用又は、歩行訓練などとし、食物繊維の多い料理の工夫、水分補給に気をつけている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の拒否がある場合次回に入浴。あまりの拒否が多い場合は衛生上の問題も考慮。いろいろな工夫をして援助している。	入浴は週3回午前中の対応であるが、本人の要望や失禁等あれば、その都度入浴やシャワーの対応を行っている。拒否がある方には、浴室の鏡を見せ「顔を剃ってきれいにしましょう」と言って入浴をすすめたり、また、入浴剤やしょうぶ湯・ゆず湯など季節毎の楽しみを味わっていただけるよう支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状況に応じて日中の臥床時間を考慮、夜間の良眠に繋げている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋に目を通し、要量が本人に合わない場合又は病状の変化に伴い、かかりつけ医に相談し、支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	パッチワーク・縫物・俳句他その方の生活歴にあった支援。時には食したい希望をとり、外食などで気分転換を図っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事計画をたて、外出・外食。時には家族の参加なども考慮し、支援している。	毎日、散歩に出かけている。更に本人より散歩の希望があれば一緒にでかけ、要望に沿うようにしている。以前、利用者からウナギが食べたいとの要望で、全員で浮羽まで行ったことがあり、積極的に対応をしている。家族の方とも一緒に外出をしたり、食事にでかけたりしており協力を得ながら支援をしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	併設ケアハウスに売店が出店。時には買い物に出かけている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の帰宅願望、落ち着きがない場合電話が出来る様支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当ホームは鉄筋建築の為、共有空間の環境には気をつけ観葉植物・利用者の作品を多く展示。 作品にも季節感を取り入れいる。	鉄筋建築の冷たいイメージを出さないようにと、入り口には季節に合わせた手作りの立体的な作品を飾っている。広いリビングは大きな窓から光が差し込み、寄せ植えされた植木鉢・利用者の手によるひと針ひと針のパッチワークのタペストリー・フェルトの手づくりカレンダー・習字等多くの作品が飾られ心地よく過ごせる工夫が多くみられた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアが応接室、食堂、畳の空間、思い思いの場所でくつろぎ生活過ごしておられる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所以前使用された思い出の家具の持ち込みを希望している。	居室には本人の使い慣れた家具や仏壇が持ち込まれている。その他、家族の写真や思い出の写真、自分で作った作品等が飾られて、それぞれにその人らしい居室になっており、居心地良く過ごせる工夫がなされていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内タンスなどには本人が理解できる様、仕分け記入したテープを用いている。厨房内の収納場所にも仕分けのテープで表示。 3、4階のベランダ・居室や夜間の窓(ブザー)の設置。		